

日本現象学会／レヴィナス協会／京都大学大学院文学研究科宗教学専修共催  
国際シンポジウム

## 個と普遍 エマニュエル・レヴィナスと極東の思考

日時・場所

2019年11月16日(土)・17日(日) 早稲田大学戸山キャンパス

テーマ① レヴィナスと極東の思考

テーマ② レヴィナスと伝統的なもの

2019年11月30日(土)・12月1日(日) 京都大学吉田キャンパス

基調講演 個と普遍

テーマ③ レヴィナスと医療の現場

招待講演者

ジャン＝ミシェル・サランスキ (パリ西ナンテール大学名誉教授)

ジャコブ・ロゴザンスキ (ストラスブール大学名誉教授)

ジャン＝フランソワ・レイ (アルトワ大学名誉教授)

フロラ・バスティアーニ (トゥールーズ大学准教授)

レア・カルマンソン (ドレーク大学准教授)

特定講演者

合田正人 (明治大学教授)

村上靖彦 (大阪大学大学院教授)

杉村靖彦 (京都大学大学院教授)

**そのほか一般発表者を募集します** (詳細は下部を参照)

使用言語：フランス語・英語 (適宜日本語による通訳・翻訳がつきます)

入場無料・登録不要

お問い合わせ：レヴィナス協会事務局 (sjel.office@gmail.com)

\*本シンポジウムは日本学術振興会研究成果公開促進費および笹川日仏財団の助成を受けたものです。

## 趣旨

本国際シンポジウムの基調となるテーマは、「個と普遍」である。このテーマは、具体的には、以下の3つのセクションに別れる。

### 1) 「レヴィナスと伝統的なもの」

伝統とは、ある特定の地域、文化において、特定の言語を用いる、個的な共同体に根ざして育まれる。それはしばしば、他の地域や文化においては翻訳不可能でさえある。にもかかわらず、その伝統的なものが、地域や文化、言語の枠を越えて、普遍的な共感を得ることがある。本セクションでは、ユダヤ的な伝統に根ざしながら、なおかつ普遍的な喚起力を持つレヴィナス哲学の謎を探究する。

### 2) 「レヴィナスと医療の現場」

レヴィナスの思想は、看護や精神療法を含めた広い意味での医療現場において、具体的な諸問題を考察するための多くの材料を与えている。今日の医療の現場では、個々の人間が一般化できない問題を抱えており、それらの問題は、匿名的で万人対応型の制度化された医療措置では対処できない。よってむしろ具体的で個的な対人関係を分析することこそが、普遍的に必要とされている。本セクションではそのような観点から、レヴィナス哲学の可能性を探る。

### 3) 「レヴィナスと極東の思考」

レヴィナスの哲学は、フッサール、ハイデガーによって生まれ、大きな哲学的潮流となった現象学にその根の一つを持っている。ところで、この現象学をはじめとする西洋哲学から触発されて発展したのが、日本における京都学派の哲学である。ユダヤ的な背景を持つレヴィナス哲学と、極東で発展した思想は、その個々においては強い独自性、特殊性を持っているものの、現象学という共通言語により、普遍化に開かれた対話が可能である。本セクションでは、京都学派をはじめとする日本哲学に限らず、広く東アジアの哲学思想と、レヴィナス哲学の対話の可能性を模索する。

## 一般発表者募集

募集人数：10名程度

\*日本現象学会・レヴィナス協会の会員である必要はありませんが、応募者が多数の場合会員が優先されることがあります。交通費、宿泊費の補助はありません。

発表内容：以下の本シンポジウムのテーマにふさわしいもの（趣旨を参照ください）

テーマ① レヴィナスと極東の思考

テーマ② レヴィナスと伝統的なもの

テーマ③ レヴィナスと医療の現場

発表言語：フランス語もしくは英語

\*ただし、日本語でのレジュメないし翻訳原稿をご用意ください。

応募締め切り：2019年8月31日（土）

応募方法：以下のフォームに必要事項をご記入ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfvXdeCz9kGxGrSi2TyJCfxCudEkcFnKvinx25bBCEUHgsh0w/viewform>

お問い合わせ：レヴィナス協会事務局（[sjel.office@gmail.com](mailto:sjel.office@gmail.com)）

選考は本シンポジウム運営委員会にて行います。9月15日（日）までに発表の可否をご連絡いたします。